

令和7年度 学 校 評 価 報 告

草加市立松江中学校

(令和8年1月21日作成)

1 学校教育目標	
ま 学ぶ意欲のある生徒 (かしこく) 知	
つ 強い心と体を持つ生徒 (たくましく) 徳・体	
え 笑顔あふれる生徒 (あたたかく) 和・輪	
2 重点目標・努力目標	3 前年度の成果と課題
<p>1 教師一人ひとりの授業力の向上<子どもの学習意欲・興味・関心を高める工夫、読解力の向上、思考力・判断力・表現力の育成></p> <p>2 集団生活を通じた豊かな人間性の育成<道德教育の充実、子どもが主体となった学校行事の推進、生徒会活動・専門委員会活動の充実></p> <p>3 共感的な人間関係の育成<生徒指導・教育相談体制・特別支援教育の充実、いのちを大切に教育の充実></p> <p>4 教育環境の整備・充実<子どもの自己存在感が感じられる潤いのある教室掲示、整理整頓された清潔感のある学習環境、読書に親しむ環境の充実></p> <p>5 「幼保小中を一貫した教育」の継続・推進<自ら学び共に高め合う児童・生徒の育成、中学校区での連携・協力></p> <p>6 コミュニティスクールの推進<地域とともにある学校の推進></p> <p>7 松中PRIDEの育成・推進<感謝・敬愛・礼儀・正義・自律・努力>の心の育成></p> <p>① 「ありがとう」「ごめんなさい」を言います</p> <p>② 「いじめ」をしません</p> <p>③ 心をこめて接します</p> <p>④ 卑怯な振る舞いをしません</p> <p>⑤ 我慢します</p> <p>⑥ 夢に向かって頑張ります</p>	<p>成果</p> <p>○学校教育目標、目指す学校像、特に「松中PRIDE」を意識した教育活動が推進され、一定の成果をあげている</p> <p>○ホームページや連絡メールの積極的な活用により、保護者、地域とともにある学校づくりを行うことができた。地域から生徒の立ち振る舞いに感謝の言葉を頂いた。</p> <p>○生徒指導上の様々な問題に対して、職員一人ひとりの共通理解に基づき、積極的かつ組織的な指導と素早い初期対応により問題解決と改善を図ることができた。</p> <p>課題</p> <p>●超過勤務の度合いが上がった。確実に働き方改革や超過勤務に対する意識が高まっている。一層、より効果的でタイムパフォーマンス等を加味した教育実践に取り組んでいく。</p> <p>●各種学力・学習状況調査において、各学年・各教科の学力の伸びが見られたが、まだ改善の余地があることから、今後も学力向上の実現を目指した指導法の工夫や職員研修を組織的に取り組み、さらに発展させていく。</p> <p>●保護者の要望として、今後力を注いでほしい項目としては、「基礎学力」「思考力・判断力・表現力」「思いやりの心」の育成だった。家庭学習の更なる充実や、授業・学校行事等、学校教育全体でこれからの育成に一層努めていく。</p> <p>●不登校生徒への対応の工夫や問題行動について、未然防止の観点からSCやSSWや相談員等と一層の連携を図り、環境づくりや積極的な生徒指導を引き続き推進する。</p> <p>●外部講師を招聘しネットトラブルや情報モラルについて学校全体で防止にむけた取組を継続して行っていく必要がある。</p>

4 評価表 ※評価基準 [A:十分達成している B:おおむね達成している C:やや不十分である D:不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運	①組織運営	<ul style="list-style-type: none"> 学校経営目標、方針 校務分掌組織 適所への適材配置 職員会議等の運営 予算の執行・決算、監査等 	A	<p>○学校教育目標を達成するための教育活動をしっかりと進められた。</p> <p>○各種会議の開催時期を精選し、内容を充実させたことで、適切に運営することができた。</p> <p>●全体的に校務分掌組織は適切に行われたが、一部の分掌組織で仕事量の偏りがみられた。</p> <p>●年度当初の職員数、授業担当の変更など、職員の負担感が増した。</p>
	②研究・研修	<ul style="list-style-type: none"> 研究組織、計画、実施 校内研修の推進 授業改善への取組 校外研修会への参加 人材育成 	A	<p>○学力向上に向けて、適切に分析の機会を設け、それを基に各教科での目標に向けた効果的な活動を展開した。</p> <p>●A IドリルやI C T機器・ソフトを使った活動を充実させる研修をさらに深めていく。</p>

営 に 関 す る も の	③保健管理・安全管理	<ul style="list-style-type: none"> 保健計画、安全計画 環境衛生の管理 健康観察、安全点検 緊急事態発生時の対応 危機管理マニュアルの作成・活用 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○小中合同避難訓練や避難所開設訓練、不審者対等訓練等、様々な訓練を計画的に行った。 ●定期的な安全点検をより充実させ、校内全体での安全・防犯意識の向上を図る ●危機管理マニュアルをより実態や社会の現状に合ったものに対応する必要がある。
	④情報管理・施設設備管理	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報の管理、保護 施設設備の管理と有効利用 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○個人情報の管理と保護が適切に行われた。 ○修繕等が適切に進められた。 ●清掃活動について、生徒がより一層主体的・積極的に行えるようにしていく必要がある。
	⑤地域との連携 開かれた学校	<ul style="list-style-type: none"> 学校情報の発信 学校公開の実施 学校運営協議会の推進 地域、校種間連携 PTA活動の活性化 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○HP個人情報の管理と保護が適切に行われた。 ●学校と地域のかかわりを充実させていく必要がある。
	⑥幼保小中を一貫した教育	<ul style="list-style-type: none"> 目指す子ども像の共有 15年間を通じたカリキュラムの編成 一貫教育推進のための組織づくり 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○小学校との情報交換を中心に、中学校区での情報交換会を計画的に開催し、情報共有を行った。 ●児童・生徒との交流を増やしていく必要がある。 ●幼保小中を一貫した教育の推進にむけ、取組を増やす必要がある。

(様式2・中学校用②)

草加市立松江中学校

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育 活動 に 関 す る も の	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> 15年間を通じたカリキュラムの編成、実施 教育計画の作成 教育活動の評価 目標、方針の周知 授業時数の配当、確保 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○学習内容を習得させるための授業時数が確保でき、教育課程の編成は概ね適切であった。 ●日課表の見直しを継続的に進めていく必要がある。
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 評価、評定の工夫 外部人材の活用 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○各教科で板書・発問の工夫やICTの活用等で生徒の関心を高めることができた。 ○校内研修を通して、各教科での授業研究を行い、授業について改善を図ることができた。 ●授業内容を十分理解できていない生徒への支援が必要である。
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の作成 各教科との関連 道徳的実践力の育成 家庭、地域社会との連携 いのちの教育の推進 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○全校・学年で連携して、計画的に道徳の授業を実施した。 ○道徳教育を通じて「思いやりのある心」が育まれている。 ●道徳的心情だけでなく、道徳的実践力が育つように指導を行う必要がある。
	④特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 学級活動、学級経営 学校行事 生徒会活動 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○豊かな人間性と社会性を育成する学校行事を実施した。 ○生徒の自主的・実践的な態度が育成できるような生徒会活動や委員会活動を実践した。 ●多様な意見を取り入れながら、行事計画を見直し、活動の活性化をより一層今後図っていく。
	⑤「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導内容の充実 指導方法の工夫と改善 評価の工夫 地域の人材・物的資源の活用 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○全体計画・年間指導計画に基づき、全校・学年で連携して実施した。 ○体験的・問題解決的な学習を実践した。 ●ふるさと学習を計画的・効果的にすることが不十分だった。

⑥生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 組織的な生徒指導 問題行動への対処 教育相談、生徒理解 いじめ防止対策 保護者、地域、諸機関との連携 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○学校・学年内で十分に情報共有ができ、生徒指導担当を中心に丁寧に指導を行うことができた。 ○素早い初期対応により、問題が深刻化する前に問題解決を図ることができた。 ●不登校傾向にある生徒へのアプローチを教職員の役割を基に、複数で丁寧に対応することが必要である。
⑦キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> 組織的なキャリア教育 指導方法の工夫と改善 啓発的経験の充実 進路情報の収集・活用 職場体験活動 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○各学年において、体験的なキャリア教育を実施することができた。 ○職場体験活動を実施した。 ○進路に関する情報を生徒や保護者に広く丁寧に周知した。 ●キャリアパスポートの有効利用方法を見いだす。 ●不登校傾向生徒への情報提供や指導を丁寧に必要がある。
⑧特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> 個別の指導計画、支援計画 指導方法の工夫と改善 通常学級との交流 諸機関との連携 校内支援体制の整備 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○支援が必要な生徒に対して、担任教諭を中心に連携をし、適切に支援を行うことができた。 ●特別支援学級の生徒への支援目標や対応方法を周知し、職員全員が関わって指導する。
⑨学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画、支援計画の作成 図書館補助員の活用 諸機関との連携 図書館の整備 図書館利用の工夫 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○読書の時間を確保し、図書館の利用状況を向上させた。 ○学校司書による図書館だよりや廊下の掲示物など、取組の工夫が見られた。 ●生徒にとって図書館を利用可能な時間が短い。
⑩情報教育	<ul style="list-style-type: none"> 教育計画の作成 校内研修の充実 I C T機器の積極的な活用 情報モラル教育の推進 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○授業や集会行事でI C T機器の活用が積極的に行われている。 ●授業内で、生徒がタブレットを使用する頻度が少ない。 ●A Iドリルや様々なソフトの効果的な活用が必要である。
⑪人権教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の策定 各教科との関連 人権感覚の育成 校内研修の充実 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○教育活動全体で、差別を許さない生き方を育て、人権を尊重しお互いを認め合う態度を育むことができた。 ●今後も継続して、校内研修で適宜取り上げ、教職員の理解を深めていく必要がある。

(様式2・中学校用③)

草加市立松江中学校

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
III 特色ある学校づくり	確かな学力	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 わかる授業づくり 指導方法の工夫と改善 評価、評定の工夫 外部人材の活用 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○各教科とも板書・発問の工夫やI C Tの活用等で生徒の関心を高めることができた。 ○各教科ごとに授業研究会を実施し、相互授業参観を行い、授業改善を図ることができた。 ●効果的な家庭学習の取組を充実させ、校内全体で徹底させる必要がある。
	豊かな心	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の作成 各教科との関連 道徳的実践力の育成 家庭、地域社会との連携 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○「松中PRIDE」を推進した。 ○道徳の授業において、学年でローテーション授業を実施した。 ○学校公開を実施し、P T Aや地域との連携を密にした。 ●校内研修をより充実させ、道徳的実践力が育つように指導を行う必要がある。
	幼保小中を一貫した教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 幼保小との連携 研究発表にむけた取組 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○中学校区連絡協議会等で適宜、情報共有を行った。 ●委嘱研究をきっかけに更なる連携が必要 ●中学校区で「主体的・対話的で深い学び」の実現にむけ、連携した取組を充実させる必要がある。

5 総合評価（学校関係者評価を含む）

学校運営協議委員会より：明るく楽しい教育活動が展開され、良かった

：生徒からもメンターの方に相談できるようになれば不登校は減ると思う。

- ・校務分掌や会議も適切に実施していることに加え、学校教育目標、目指す学校像を意識した教育活動が推進されていることで、一定の成果を上げている。
- ・日々の教育活動を学校公開等で知ってもらう機会を設け、学校・生徒の取組や様子のみでなく、家庭・地域とともにある学校づくりを行うことができた。
- ・生徒指導上の様々な課題に対して、学校・学年内で十分に情報共有をし、素早い初期対応をすることにより、課題解決と改善を図ることができた。

6 次年度の改善策

- ・ホームページや連絡メールを積極的かつ効果的に活用することで、家庭や地域とより密な連携を図っていく必要がある。
- ・昨年度に比べ、時間外在校時間が月間で約20時間減少したが、依然として高い傾向にある。確実に働き方改革や超過勤務に対する意識が高まっていることを受け、教職員の働き方改革の具体的な手立てを積極的に講じていく必要がある。
- ・各種学力・学習状況調査において、各学年、各教科の学力の伸びが見られたが、まだ全体的に改善の余地があることから、今後も「主体的で対話的で深い学び」の授業改善を実践し、学力向上の実現を目指した指導法の工夫や職員研修を組織的に取り組み、さらに発展させていく。
- ・保護者の要望として、今後力を注いでほしい項目としては、「基礎学力」「思考力・判断力・表現力」「規範意識」の育成だった。家庭学習の更なる充実や、授業・学校行事等、学校教育全体でこれからの育成に一層努めていく。
- ・不登校生徒への対応の工夫や問題行動について、未然防止の観点からSCやSSWや相談員等に加え、関係機関との一層の連携を図り、環境づくりや積極的な生徒指導を引き続き推進する。
- ・ネットトラブルや情報モラルについて継続的に学校全体で防止にむけた取組や、生徒の意識向上にむけた取組を継続的に実施していく必要がある。